

医療福祉システムの理論と実践

2単位

担当教員：李 忻

医療福祉制度の仕組み及び実践における課題について紹介、討論する

講義目的・到達目標

医療保険制度の基本的仕組みについて理解する

社会保険としての医療保険制度における保険者の役割、各保険制度の財政状況、医療保険給付の内容等について学ぶ。保険者の役割、保険制度の財政状況、保険給付の内容等の視点から、各健康保険組合の現状と問題点、協会管掌健康保険制度の現状と問題点、市町村健康保険制度の現状と問題点を理解することを目標とする。

実践的な視点から社会福祉援助の課題を探る

高齢・障がい等により、自分の権利を自分で守れない時に、社会福祉の専門職としてどのように援助すべきか、単に施設の運営基準に従って福祉サービスを提供する、という域から脱却していなければ、良い福祉サービスの提供は決して実現できない。実践的な視点から、権利擁護・人権感覚をよく理解した福祉人材は、どのようにコンプライアンスルールに基づきながら福祉サービスを提供すべきか、について理解することを目標とする。

講義の構成

講義の流れ

まず、担当教員が2日間のスクーリングの構成、目的、達成する目標などについて説明した上で、今日の日本の医療システムの仕組み、財政状況、問題点等について厚生労働省が発表したデータに基づいて講義をする。今日の医療保険システムにおいては、様々な問題点及びその持続可能性について多く議論されているが、データに基づいて、受講者各自で医療保険システムについて、評価してもらう。さらに、福祉システムについては、社会福祉基礎構造改革の前後で、権利擁護の本質的な変化、どのような新たな要素が加わったのかなどについて講義を行った後、実践的な視点から、権利擁護はどのようにして実現できるのか、望ましい福祉人材像は何かなどについて、事例検討及びグループワークを通じて、自ら考えながら学ぶ。

1 2日間の講義の目的、講義の達成目標及び講義の進め方を説明する

2 保険者の役割、保険の財政状況、保険給付の内容等の視点から医療保険制度を学ぶ

3 各医療保険制度の現状と問題点について考える

4 社会福祉基礎構造改革と権利擁護について実践的な視点から学ぶ

5 社会福祉分野における望ましい福祉人材像についてグループ討論などを通じて理解する

6 レポート形式の科目修了試験

講義のポイント

基礎講義では医療・福祉システムについて、漠然とした議論や感情論が先走りした議論ではなく、正確な厚生労働省の発表したデータに基づいて行う。また、社会福祉の実践としての社会福祉援助については、現場で活躍している社会福祉士をゲスト講師として招き、生きた事例検討などを通じて社会福祉の実践における人権感覚の重要性、権利擁護はどのようにして実現できるのかについて深く理解する。

受講するにあたって

- ①事前学習のすすめ オンデマンド科目「社会保障論」を履修した上での受講を勧める。
- ②参考図書 各年版厚生労働白書
- ③評価基準 レポート及び2日間の授業参加によって、成績評価を行う。レポートは、講義で紹介したデータ、概念などを正確に引用しながら、問題意識、論点、根拠、結論、考察を行ったレポートは高く評価される。